

大阪府内の高槻と信太山の陸軍墓地

森下徹・横山篤夫

The Army Cemeteries in Osaka Prefecture at Takatsuki and Shinodayama

はじめに

- ①高槻陸軍墓地
- ②信太山忠靈塔（信太山陸軍墓地）
おわりに

【語文解説】

大阪府内には、一九四五年八月一五日時点で三箇所の陸軍墓地が存在していた。しかし陸軍の解体とともに、その沿革も次第に不明となっている。

三箇所のうち最大の真田山陸軍墓地については、別稿で詳しく検討する。本稿では、高槻と信太山の陸軍墓地の変遷と戦後の推移の概要を考察した。両墓地は、成立

時期や戦後の祭祀を担当した地域の状況等によって、対照的な存在となっている。

高槻陸軍墓地は、遅くとも一九二二年には成立した。工兵第四聯隊の平時の公務傷

病死者のうち、一九三四年までの一基の墓碑が現存している。その後墓域は拡大され、被葬者も増加したがその分は後に整理され現存していない。日中戦争以後の戦死者の遺骨は、隣接して陸軍墓地の祭祀にかかわった靈松寺に多数納骨された。戦後陸軍墓地に合葬墓を作る予定だったと思われるが果たされず、同寺が現在もその祭祀を担当している。墓地は戦後大蔵省に移管され、一九五一年に高槻市に払下げられた。

高槻市は墓地を四分の一に整理縮小し、一部は市の施設に使い残りは靈松寺に分与した。戦後大阪の陸軍墓地の祭祀を担当するため、大阪靖国靈場維持会が結成され、その高槻支部も作られた。一九九一年に靈松寺が改築され、本堂内に戦死者等の慰靈施設が設けられると同時に、高槻支部は解散した。

信太山忠靈塔（信太山陸軍墓地）は、中部第二七部隊と地元との協力によって建立され、一九四二年四月に竣工した。納骨堂には一五六四人余が合葬されている。大半は、日中戦争・アジア太平洋戦争における関係部隊の戦死者だが、明治期・大正期の戦没者、地元出身の他部隊や海軍の戦死者等も含まれている。戦後、忠靈塔は大蔵省に移管され、一九五二年の独立後和泉市に無償貸与された。祭祀は大阪靖国靈場維持会信太山支部が担つてきたが、現在は和泉市遺族会が担当している。